

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
m

88

13-5

国立公文書館	
分類	④ 赤
配架番号	3 A
	14
	13-5

13-5

南洋引継金算定シテ

昭和十一年下半期残金算定

一、四、八、〇、四、五

明細表

一、金口	水口	三三、六〇三
二、金口	水口	三〇、一四二
三、金口	水口	一〇、三九七
四、金口	水口	六四、〇四九
五、金口	水口	二二、五一九

内訳 水口 一、三、五、一、五、七八
地口 五、六、四、三、六

昭和十一年七月二日

南洋拓殖株式会社

昭和十八年秋仕録並年秋末残録

仕録
二五八六八
一八四一三
減

内訳 水中録
二集四八七
六四五一三
減

地上録
一一九六一
五三八一
減

残録
一三三八五
五三〇
減

内訳 水中録
一三三〇
六六三
減

地上録
七八六
減

昭和十九年一月三日

南田 桂子

南洋拓殖株式会社

1A-5H	A ²¹	10,742 ¥	1,740 ¥	1,641 ¥	1,094 ¥
	1地	8,352 ¥	1,940 ¥	2,866 ¥	1,982 ¥
	D ²¹	14,904 ¥	2,948 ¥	3,470 ¥	2,343 ¥
	干地	7,952 ¥	1,800 ¥	1,388 ¥	1,250 ¥
	2地	2,623 ¥	3,322 ¥	4,979 ¥	2,062 ¥
	3地	3,085 ¥	5,826 ¥	4,433 ¥	2,856 ¥
9月 3日 探検量					
	A ²¹	15,419 ¥			
	1地	15,140 ¥	94 ¥	50,372 ¥	152,218 ¥
	D ²¹	22,665 ¥		101,846 ¥	
	干地	12,290 ¥		290	156
	2地	40,496 ¥			
	3地	46,310 ¥			

南洋拓殖株式会社

めくられず

昭和三十九年度採掘豫定表

一 原鉱採掘量

二二〇、〇〇〇噸

内訳 1. 地上鉱

一一一、六九七噸

日産 三三七噸

2. 水中鉱

九八、三〇一噸

水中採掘種別

年

産

種

日

産

AA型ドラヂヤ

一七、六一五噸

三〇〇日

五八七噸

BB型ドラヂヤ

三〇、〇〇〇噸

三〇〇日

一〇〇、〇〇噸

排水干抽掘

五〇、六八六噸

二四〇日

二二二、二噸

備考

尚外ニ雨露天等場ヨリ十九年度水中鉱補助トシテ

五〇、〇〇〇噸 屋内倉庫ニ倉入ノ豫定ナリ

一 作業日数

三三一日

上季期 一六四日

下季期 一六七日

一 採掘運用人員

七〇〇人

昭和三十九年度日系島子定二〇〇人ヲ算入

南洋拓殖株式会社

一 採掘係用雇人員 二一八、四六〇人 但、上半期 一〇六、三四〇人

州設 採掘現在員 七〇〇人 但、一月末、島予定 二〇〇人、
下半期 一〇〇、三三〇人

由他係三貸付 一三三、三四〇人

貸付種別	三回貸付	延人員	備考
積取船務役	二〇〇人	八、〇〇〇人	四、〇〇〇噸平均四〇隻
石炭船務役	一五人	三、三四〇人	一月 一三回
交通船務役	一五人	九、〇〇〇人	一月 五回
其他		二〇、〇〇〇人	
計		一三三、三四〇人	

南洋拓殖株式會社

め
く
れ
ず

蔵 査

所 計		
水 準 上	水 準 下	計
²⁵ 16,257	³² 1,526,797	³ 1,992,752
⁴³ 9,407	0	⁴ 529,407
⁸⁰ 25,864	³² 1,526,797	³ 2,522,182
⁸⁰ 3,836	⁰⁹ 801,306	³ 1,185,142
²⁰ 9,976	0	³ 447,976
¹⁰ 2,833	⁰⁹ 801,306	⁶ 1,615,139

總 = 17 小数点以下 = 1

採掘可能率
↑
70% × 75% = 52.5%



昭和17年1月1日現在 海軍省附置 海軍省附置 海軍省附置

原紙

原紙種別	第一原紙			第二原紙			第三原紙			合計		
	水準上	水準下	計	水準上	水準下	計	水準上	計	水準上	水準下	計	
白色原紙	83,331 ²¹	113,720 ²¹	197,051 ²¹	383,126 ²¹	1,112,878 ²¹	1,496,002 ²¹	0	0	466,257 ²¹	1,526,797 ²¹	1,992,999 ²¹	
褐色原紙	126,945 ²³	0	126,945 ²³	708,156 ¹⁵	0	708,156 ¹⁵	194,306 ¹⁰	194,306 ¹⁰	529,407 ²²	0	529,407 ²²	
合計	210,276 ²²	113,720 ²⁰	323,996 ²²	1,091,282 ³¹	1,112,878 ²²	2,204,160 ²³	194,306 ¹⁰	194,306 ¹⁰	995,664 ²²	1,526,797 ²²	3,729,917 ²²	

精紙

精紙種別	第一精紙			第二精紙			第三精紙			合計		
	水準上	水準下	計	水準上	水準下	計	水準上	計	水準上	水準下	計	
白色原紙	64,998 ³⁶	217,045 ²²	282,043 ²²	278,838 ²²	584,266 ¹²	863,104 ²¹	0	0	363,836 ²⁰	801,306 ²²	1,165,142 ²²	
褐色原紙	102,953 ²⁴	0	102,953 ²⁴	176,932 ¹⁸	0	176,932 ¹⁸	165,160 ¹⁸	165,160 ¹⁸	449,976 ²⁰	0	449,976 ²⁰	
合計	167,951 ²⁶	217,045 ²²	384,996 ²²	455,770 ¹²	584,266 ¹²	1,040,036 ²⁹	165,160 ¹⁸	165,160 ¹⁸	813,812 ²⁰	801,306 ²²	1,615,118 ²²	

備註
 1,615,000 英噸以下を以て「17」の精紙を評価し、其数1を1 単位、英噸以下小数点以下は「1」
 水準面下、白色原紙、採掘可能率、70% + 1 (国査委員計算)
 (昭和16年7月25日 東業1421号 採掘可能率)
 先願の7%を示す、
 水準面上白色原紙 78% 水準面下白色原紙 20% x 75% = 52.5%
 水準面上褐色原紙 85%

裏面白紙
めくれず

(昭和十九年日本製鋼所) 製鋼部

アシガウル島水面下燐鑛埋藏量ト採掘方法ニ依ル
採掘予定鑛量

(昭和十九年度上期現在) (実測ニ依ルモノ)

水中埋藏鑛量 一七六四、六九〇屯 (一平方米一七六英屯)

區	別	埋藏量	採掘予定量	採掘不能量	水中埋藏量	採掘予定鑛量	採掘不能鑛量	採掘予定率
一號區	第一鑛區 大盆地	一六三、〇七五	七割	四八、九三三	六三、一五三	五一、〇〇〇	五五、三	五九、九%
二號區	カバヤニ依濕地 採掘予定地	九九、〇四〇	七割	三三、九七二	一五三、〇〇〇	六六、三三三	一九九	一九九%
三號區	該所下依濕地	三四四、二五九	七割	一〇三、三七八	一四二、五〇〇	九八、四八一	一五九〇	一九九%
四、五、六號區	表層依濕地	一五八、三二六	九割	一五、八三三	一四二、四八四	〇	一〇〇	〇%
合計		一七六四、六九〇	二六六、九四六	四九七、七四四	五〇一、一三七	七六五、八〇九	三九九、五	三九九%

①一號區ハ現在A型プリストマンニ依リ年約一八、〇〇〇屯採掘面積
四九、一二平方米ノ内約半ハ右機ニ依リ採掘サレテ十数尺ノ水
面トナル

南洋石産株式會社

① 一號區ドレッダヤ一採掘面積五〇〇〇平方メートル採掘可能平均鉬層
 六米ト算定
 二號區ハ現在D型プリストマンニ依リ年約三〇〇〇〇噸採掘先行採
 トシテ五〇HPポンプ採掘ニ依ツテ居ル
 二號區三號區ノポンプ採掘ハドレッダヤ一ノ先行採掘トシテ行フ
 二號區ポンプ未採掘面積ハ六〇〇〇〇平方メートル三號區ハ五五〇〇〇
 平方メートルポンプ採掘平均鉬層ハ三米トス
 ② 採掘不能量ハ全水中鑛ノ三〇%ヲ見積リ此ノ中ニハドレッ
 ダヤ一採掘跡ニ沈積ノヘドロ(約七%水分五〇%)並ニ添層部
 ニテドレッダヤ一採掘不能ナル部分ヲ含ム。
 但シ四、五、六號區即チ添層位濕地ニアリテハポンプニテ完全
 採掘ノ予定ナレバ石灰山表面ノ凹凸ニ依リ水中整理採
 掘不能鑛ノ三〇%見積ル

（和洋拓殖日本礦業株式會社）採掘部

③ ポンプ採掘ハ主ニ第一、三、四、五、六號區ニ採用スルガ其ノ
 餘カヲ第一號區ニ採用ノ予定ナリ其ノポンプ採用面
 積約一〇〇〇〇〇平方メートル予定ナリ
 ④ ドレッダヤ一採掘ハポンプ排水併用ニ依リ其ノ水面ヲ
 低下セシメ以テ採掘深度ヲ増サシメ採掘不能鑛量ヲ
 減少セシメ且ツドレッダヤ一ノ能率ヲ高ムルモ其ノ量
 ハ実績ニ待ツテ要ス

南洋拓殖株式會社

182

約	一六七〇年頃	暹羅	一三三が	推定	と	来	る
邦人	一〇七三	智民	七七八	その他	在	る	八六三人
表	現	と	用	の	水	噴	揚
							具
							・
							一八六三
							三
							ル
							ル
							ル
							ル
							ル
							ル
							ル
							ル

約一六七〇年頃
 邦人一〇七三
 表現と用の水噴揚具
 昭永十三年三月十一日
 南洋拓殖株式會社

南洋拓殖株式會社

めくれず

3
Copy

12
4
46

